

(別表第1の3)

[認知症対応型共同生活介護用]

1. 評価結果概要表

作成日 平成 20 年 6 月 17 日

【評価実施概要】

事業所番号	3870104100		
法人名	有限会社 ジー・エル・ファミリー		
事業所名	グループホーム・ファミリー立花		
所在地	松山市立花1丁目1番23号 (電話) 089-933-7255		
管理者	村上 文広		
評価機関名	愛媛県社会福祉協議会 利用者支援班		
所在地	愛媛県松山市持田町三丁目8-15		
訪問調査日	平成 20 年 5 月 9 日	評価確定日	平成 20 年 6 月 18 日

【情報提供票より】 (平成 20 年 4 月 9 日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成 16 年 5 月 31 日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	21 人	常勤 16 人, 非常勤 5 人, 常勤換算	18.5 人

(2) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	37,000 円	その他の経費(月額)	15,000 円
敷金	有()円 ○ 無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	有()円 ○ 無	有りの場合 償却の有無	
食材料費	朝食	円	昼食 円
	夕食	円	おやつ 円
	または1日当たり	1,200 円	

(3) 利用者の概要 (平成 20 年 4 月 9 日事業所記入)

利用者人数	18 名	男性 10 名	女性 8 名
要介護 1	5 名	要介護 2	4 名
要介護 3	3 名	要介護 4	4 名
要介護 5	2 名	要支援 2	名
年齢	平均 83.7 歳	最低 70 歳	最高 97 歳

(4) 他に事業所として指定等を受けている事業及び加算

指定	あり	指定介護予防認知症対応型共同生活介護
指定	なし	指定認知症対応型通所介護
届出	なし	短期利用型共同生活介護
加算	あり	医療連携体制加算

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

幹線道路から少し入った下町風の住宅地にあり、一見おしゃれな二階建てアパートに見える。利用者は男性が多く、さっぱりとした雰囲気と個性的な生き方が同居している。職員は気負うことなく、利用者一人ひとりの生き方に添ったサービスを提供できている。運営者が現役の医師であるため健康管理と医療面での対応はしっかりしており、終の棲家となり得るホームという感がある。

【質向上への取組状況】

▼ 前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況 (関連項目: 外部4)

地域との関係づくりについての様々な改善要望については現状あまり進展は見られないが、介護計画に家族の意見を取り入れる取り組みは積極的に改善に取り組んでいる。また、同業者との交流に関しても一歩前進している。

▼ 今回の自己評価に対する取り組み状況 (関連項目: 外部4)

管理者やベテラン職員と新しい職員の間には、理解面においても活用面においても開きがある。職員一人ひとりが丁寧に自己評価に取り組み、ミーティングを重ねて改善点を話し合いながら実践に活かすことで、ホームとしてのケアの質を向上させていくことを期待する。

▼ 運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み (関連項目: 外部4, 5, 6)

ホームの様子を解ってもらおうと努めているが、開催回数がやや少なく、参加メンバーも少ない。認知症に対する理解を深めてもらい、地域でホームを支援してもらえるようメンバーを考慮すると共に、参加してもらいやすくなるようホーム行事に組み込んで開催する等の工夫を期待する。

▼ 家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映 (関連項目: 外部7, 8)

暮らしぶりや健康状態については、主に来訪時に声をかけ詳しく伝えている。来訪のない家族については、介護計画の更新時などの機会をとらえて郵送で知らせしている。行事の写真などはその都度届けている。運営推進会議に参加してもらい、意見を出してもらっている。個別には、介護計画の更新確認の際に、意見記入欄に自由に書き込んでもらい、出された意見等を運営に反映している。

▼ 日常生活における地域との連携 (関連項目: 外部3)

地域性があり、地域活動はあまりなされていない様子であるが、祭りなどの行事ごとには積極的に参加して地域の人々と交流を図っている。

(別表第1の2)

自己評価及び外部評価結果表

サービス評価自己評価項目 (評価項目の構成)

I. 理念に基づく運営

1. 理念の共有
2. 地域との支えあい
3. 理念を実践するための制度の理解と活用
4. 理念を実践するための体制
5. 人材の育成と支援

II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援

1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援

III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント

1. 一人ひとりの把握
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し
3. 多機能性を活かした柔軟な支援
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働

IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

1. その人らしい暮らしの支援
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり

V. サービスの成果に関する項目

ホップ 職員みんなで自己評価!
ステップ 外部評価でブラッシュアップ!!
ジャンプ 評価の公表で取り組み内容をPR!!!

ーサービス向上への3ステップー
 “愛媛県地域密着型サービス評価”

【記入方法】

- 指定認知症対応型共同生活介護の場合は、共同生活住居(ユニット)ごとに、管理者が介護職員と協議の上記入すること。
 - 各自己評価項目について、「取り組みの事実」を記入し、取組みたいに※を付け、適宜その内容を記入すること。
 - 「取り組みの事実」は必ず記入すること。
- (注) 自己評価について、誤字脱字等の記載誤り以外、外部評価機関が記載内容等を修正することはありません。

※用語について

- 家族等＝家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含む。
(他に「家族」に限定する項目がある)
- 運営者＝事業所の具体的な経営・運営に関わる決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)。
- 職員＝「職員」には、管理者および非常勤職員を含む。
- チーム＝一人の人を関係者が連携し、共通認識で取り組むという意。
関係者とは管理者・職員はもとより、家族、かかりつけ医、包括支援センターなど、事業所以外で本人を支えている関係者を含む。

事業所名 グループホーム ファミール立花

(ユニット名) Aユニット

記入者(管理者)
氏名 村上 文広

評価完了日 平成 20 年 4 月 10 日

(別表第1)

自己評価及び外部評価票

【セル内での改行は「Alt+Enter」です。】

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	(自己評価) 外部評価のときに、もっと具体的なものが良いのでは？との指摘を受けているが作っている。	※	理念をもっと具体的なもので分かりやすくしたほうが良いとの指摘もあるので、今後検討していきたい。
			(外部評価) 開設時に掲げた、「1. 安心して生活できる環境の提供 2. 個人の尊重と自立支援 3. 地域交流の支援」という理念のもと、ケアサービスにあっている。	※	利用者が地域の中でその人らしく生活できるよう支えていく介護をイメージして、職員全員で理念の再考に取り組むことを期待する。
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	(自己評価) 日誌やロビーに理念を明記して普段から意識しやすいようにしているのと、カンファレンスやケアプラン作成時の基本的下地にしている。	※	自然と意識できるような機会を増やすようにして、理念の実現に取り組んでいきたい。
			(外部評価) 会議や介護計画作成時には意識しているが、日々のケアにおける意識づけは薄い。特に地域交流の支援については、行事がないと意識していないことが多い。	※	毎日の生活の中で、介護サービス提供時に具体的に理念が反映できるよう取り組むことが求められる。
3		○家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえるよう取り組んでいる	(自己評価) 入居説明時や運営推進会議のときに理念の話をしたり、ホームページの中に理念の記載もあるが、積極的に理念について理解してもらうような取り組みはできていない。	※	もっと地域との関係が深まれば自然と理念についても理解していただけるようになると思うが、それがまだまだ不十分なので少しずつでも地域の中に溶け込めるような働きかけをしていきたい。

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
2. 地域との支えあい					
4		○隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	(自己評価) 年に1回ホームで花火をする時に近所に声をかけるようにしているが、他はあいさつ程度で、日常的な付き合いとまではなっていない。	※	ホーム近くの住民が職員として数名いるので、そこからでも徐々に日常的な付き合いを広げていきたい。
5	3	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	(自己評価) 地方祭は声をかけていただいて部分的に参加させていただくこともあるが、他の事はできていない。 (外部評価) 地域性があり、地域活動はあまりなされていない様子であるが、祭りなどの行事ごとには積極的に参加して地域の人々と交流を図っている。	※	少しずつでも交流を増やす努力をしていきたい。
6		○事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	(自己評価) 地域交流自体がまだ十分でないので、地域の高齢者に対しての取り組みはできていない。	※	地域交流が進めば、自然とそういう機会も増えてくと思うので、まずは地域との交流の機会をふやすことから始めていきたい。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
7	4	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	(自己評価) 十分でないが、できることから改善して行こうとしている。 (外部評価) 管理者やベテラン職員と新しい職員の間には、理解及び活用の面において開きがある。	※ ※	全てここに書かれてあるようにはできないが、より良いサービスを提供する指針になっているので、定期的な反省や見直しの良い機会だと考え、今後も評価を参考にしながら改善していきたい。 職員一人ひとりが丁寧に自己評価に取り組み、ミーティングを重ねて改善点を話し合いながら実践に活かすことで、ホームとしてのケアの質を向上させていけることを期待する。

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
8	5	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの 実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	(自己評価) 運営推進会議の開催が定期的に行えてなく回数も少ないため十分機能していきなく、サービス向上に活かされるのはこれからだと思う。	※	外部の目が定期的に入ることで、一定のサービスレベルの維持につながるのを、今後はこれをより良いサービスができるように活かしていきたい。
			(外部評価) ホームの様子を解ってもらおうと努力しているが、開催回数や参加メンバーがやや少ない。	※	認知症に対する理解を深めてもらい、地域でホームを支援してもらえよう、メンバーを考慮すると共に、参加してもらいやすくなるよう行事に組み込んで開催するなどの工夫を期待する。
9	6	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	(自己評価) 必要に応じ報告や話し合いを行っている。		
			(外部評価) 書類の提出等で窓口を訪れたり、相談窓口との連携を密にして常に相談できる関係をつくっている。		
10		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	(自己評価) Bユニットに2名成年後見制度を利用している人がいて、うち1名は入居後必要と感じ制度を利用し始めた。Aユニットは、まだ制度利用者はいないが、必要とおもわれる人にはこういう事業や制度があることを話すようにしている。	※	特に地域権利擁護事業については詳しく知らない職員がほとんどなので、今後研修に参加するなどして学んでいきたい。
11		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	(自己評価) カンファレンス時に話しをしたりして虐待防止に努めている。	※	継続して学ぶ機会を持つなどし、常に意識していくようにしたい。

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制					
12		○契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	(自己評価) 同様に行っている。		
13		○運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	(自己評価) 普段の生活の中で、利用者が自分の意思表示がしやすいような関係作りを意識し、その中で気が付いたことで運営に反映できることは出来るように努力している。		
14	7	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている	(自己評価) 面会時に様子を伝えたり、掲示板に日常の様子を撮った写真を貼ったり、時々家族にも写真を印刷し送っている。金銭管理についても面会時に確認してもらっている。健康状態については目立った変化が見られた時は、随時連絡するようにしている。 <hr/> (外部評価) 暮らしぶりや健康状態については、主に来訪時に声をかけ詳しく伝えている。来訪のない家族については、介護計画の更新時などの機会をとらえて郵送で知らせている。行事の写真などはその都度届けている。小遣い等金銭の管理については、出納帳の確認をもらっている。		
15	8	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	(自己評価) 入居時の説明で、ホームや外部の苦情等を相談できる所を伝えているのと、面会時に職員が家族と会話したりする中で、お互いに気が付いたことを伝えるような関係作りを意識している。 <hr/> (外部評価) 家族会はつくられていないが、運営推進会議に参加して意見を出してもらっている。個別には、介護計画の更新確認の際に意見記入欄に自由に書き込んでもらい、出された意見等を運営に反映している。		

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
16		○運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	(自己評価) 毎月、介護主任、ユニット長、管理者、運営者が集まり会議を開くようにしており、その時に意見や提案を聞くようにして、反映できる事については対応するようにしている。		
17		○柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている	(自己評価) 同様に努めている。		
18	9	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	(自己評価) 同様にしている。 (外部評価) 職員はユニット毎に固定しており、退職等も比較的少ない。やむを得ず退職や異動がある場合には、前もって利用者に話し、引継ぎをしっかりと、ケアサービスの後退や中断が起きることのないよう配慮している。		
5. 人材の育成と支援					
19	10	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	(自己評価) 段階に応じて計画的には行えていないが、研修の機会があれば必要と思われる職員には受けてもらうようにしている。また、参考になりそうな研修の案内が来たときは掲示している。 (外部評価) 様々な研修・講演会等の情報を開示しているが、勤務の都合もあり、段階に応じた育成計画にはなりにくい。高齢者に多い病気に対しては、医師による勉強会を開いている。	※ ※	段階ごとに計画して行うようにしていきたい。 外部研修については、段階に応じた研修となるよう勤務ローテーションにも配慮を加えて受講を推進し、日常の勤務においても、育成を意識したトレーニングやミーティング時における勉強会を推進するなどの取り組みを期待する。

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
20	11	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	(自己評価) 包括支援センターの働きかけで、管理者同士の交流の機会が定期的に行われる予定がある。それ以外では、施設に知人がいる職員同士での情報交換は見られるが、相互訪問等は行っていない。 (外部評価) 地区内のグループホームが連携し、3か月に1回情報交換をしている。今後は職員も気軽に参加できる相互訪問等もしていきたいと考えている。	※	相互訪問は今のところ考えていないが、研修等に参加した時に情報交換ができるので、そういう機会ではできるだけ増やしていきたい。
21		○職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	(自己評価) 職場環境については施設の構造上や経営上の制約からまだ不十分なことが多いと思う。	※	今後でもできることから少しずつでも改善して行くよう取り組んでいきたい。
22		○向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	(自己評価) 十分でないがそのように努めている。	※	職員が継続して向上心を持って働き続けられるよう努力したい。
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
23		○初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	(自己評価) 同様にしている。		
24		○初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	(自己評価) 同様にしている。		

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
25		○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	(自己評価) 同様にしている。		
26	12	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐徐に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	(自己評価) 必要と思われる利用者には同様にしている。 (外部評価) 入居時には自宅を訪問して生活環境を確認したり、ケアマネジャー等からも情報を収集し、丁寧にフェイスシートを作成している。また、利用者本人や家族に見学を重ねてもらい、職員とも顔馴染みになってもらうよう配慮している。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
27	13	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	(自己評価) そういう意識を持って接するように努力しているが、まだ足りないことが多いと思う。 (外部評価) 職員は、利用者のそばに寄り添いできるだけ会話する時間を取る中で、人生の先輩としての重みを感じる事が度々ある。物を大事にすることや我慢することの大切さなど、多くのことを教えられ学ぶことができていると感じている。	※	こういったことは常に意識しておかないといけないことであり、継続するための努力を続けたいものでもあるのでそうしていきたい。
28		○本人と共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	(自己評価) そういう意識を持って接するように努力しているが、まだ足りないことが多いと思う。	※	こういったことは常に意識しておかないといけないことであり、継続するための努力を続けたいものでもあるのでそうしていきたい。

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
29		○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	(自己評価) 同様にしている。		
30		○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	(自己評価) 十分でないと思うが、家族や以前交流のあった人たちにも働きかけ、馴染みの関係が少しでも維持できるように働きかけている。		
31		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	(自己評価) 同様にしている。		
32		○関係を断ち切らない取り組み サービス利用（契約）が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	(自己評価) 同様に心がけている。（実例は1件程度だが、以前利用していた方の家族が、今でも時々ホームに寄って職員や利用者と話をしに来ることがある）		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
33	14	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	(自己評価) 思いや希望をまずは受け入れるようにし、すべては無理でも、可能な部分ではできるだけ希望を取り入れるようにしている。 (外部評価) 日々の生活を共にする中で、利用者の話の端々に表れる意向や思いを受け止め、把握している。家族の来訪時には積極的に声をかけ、意向等を聞くよう努めている。		

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
34		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	(自己評価) 入居前に家族や関係者から聞き取りをしたり、入居後も本人との会話から情報が得るようにしている。		
35		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	(自己評価) 同様にしている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
36	15	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	(自己評価) 本人の普段の様子や家族の面会時等の情報を参考に月1回はカンファレンスを行い作成している。 (外部評価) 担当者が現状に基づく更新案を出し、カンファレンス時に職員全員から気づきや意見を加えてもらい、再評価して作成する。これを家族に提示して意見をもらい、新たな介護計画を作成している。		
37	16	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じた見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	(自己評価) 同様にしている。 (外部評価) 基本的には1か月を目安に評価して介護計画を見直しているが、変化があれば随時いつでも見直す体制をとっている。		

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
38		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	(自己評価) 同様にしている。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
39	17	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	(自己評価) 出来る限り対応している。 (外部評価) 理美容院、かかりつけ医への受診等の外出支援や、家の中に風を通しに自宅へ出向くなど、利用者の要望を実現できる努力をしている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
40		○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	(自己評価) 現在特に当てはまる例はまだない。	※	必要性に応じて同様におこないたい。
41		○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	(自己評価) 必要性に応じて同様におこなっている。		
42		○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	(自己評価) 今後、地域包括支援センターが中心となり、地域のグループホーム管理者が定期的に交流を持つ機会ができる予定なので、これまで以上に協働していけると思われる。	※	必要性に応じて同様におこないたい。

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
43	18	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	(自己評価) 同様にしている。 (外部評価) 運営者が医師であるため、往診はもとより頻繁にホームを訪れ、利用者の健康管理に常に配慮している。利用者の個別のかかりつけ医とも密に連携をとりながら、適切に受診できるよう配慮している。		
44		○認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	(自己評価) 同様にしている。		
45		○看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	(自己評価) 同様にしている。		
46		○早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	(自己評価) 同様にしている。		
47	19	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	(自己評価) できるだけ早い段階というわけではないが、必要と考えられる場合には同様に話し合いをしている。 (外部評価) 重度化や終末期への対応については、家族等の意見にそった対応を文書化し、「看取りについての同意書」を作成している。具体的には家族等の付き添いや宿泊の希望等へも対応している。		

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
48		○重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	(自己評価) 同様にしている。		
49		○住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	(自己評価) 同様にしている。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
50	20	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	(自己評価) 同様の対応を心がけているが、言葉遣いが友達言葉のようになることもある。 (外部評価) 利用者間、来訪者に対して、声かけや会話、記録・書類等、すべてにおいてプライバシーや個人情報に配慮している。	※	お互いに注意しあうようにしていたり、毎月のカンファレンスの時に利用者への対応についてなど、振り返り注意するようにしている。
51		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	(自己評価) 同様にしている。		

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
52	21	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	(自己評価) 職員の体制上の制約もあるが、ある程度の生活リズムを保ちながら出来る範囲で個人のペースを大切にしている。 (外部評価) 生活リズムが保たれるよう声かけはしているが、利用者のペースを優先させている。今何がしたいのか等の希望や思いを言葉や行動から察して支援するよう努めている。	※	工夫次第で、今以上に個人のペースに合わせられることも出来ると思うので、そのように努力していきたい。
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
53		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	(自己評価) あまり遠くの店の場合は近くの店に変更する場合もあるが、同様にしている。		
54	22	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	(自己評価) 参加できる人が限られてきているのと、参加できる内容も限られてきていて、部分的に準備や片付けに参加してもらっている感じになっている。 (外部評価) 利用者間の会話もあり、和気あいあいとした雰囲気がある。利用者によってはお気に入りの常備菜を持っていて楽しみにしている方もいる。準備や片付けはできる方ができていることをしている。	※	準備や片付け等、参加できる利用者にはできるだけ継続し参加していただくように働き続ける。
55		○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	(自己評価) 体重管理や医療面での制限がある場合もあるが、同様にしている。		

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
56		○気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	(自己評価) これまでの排泄パターンから時間誘導するなどし、失敗を少なくするような対応はしている。オムツの使用を減らすことは、状態を見ながらできそうなことがあると思う。	※	オムツの使用を減らすことは工夫次第でまだできそうなので、今後も改善できることはしていきたい。
57	23	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	(自己評価) 何かしら援助が必要な方が入浴するので、職員の体制上すべて本人の希望どおりにはできていない。 (外部評価) 曜日を決めるのではなく、一週間の間に2～3回、利用者の希望で入れるよう支援している。同性介助の希望にも対応している。	※	利用者の希望も取り入れながら、できる範囲で個々の希望を取り入れていきたい。
58		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々の状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	(自己評価) 同様になっている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
59	24	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	(自己評価) できるだけそうできるように努力している。 (外部評価) スーパーへ買い物に出かける方、猫に餌をあげるのが楽しみな方、ラジオから流れる歌を録音してカラオケを楽しむ方、ぬり絵・オセロ・パズル等をする方、チラシを眺めるのが好きな方など、個々に応じた様々な支援をしている。	※	工夫することで内容の充実を図れるようにしていきたい。

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
60		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	(自己評価) 実際にお金を所持している方は少ないが、希望がある人などには高額でない金額で本人に管理してもらっている。		
61	25	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	(自己評価) その日の希望に添っての外出は、職員の体制や家族等の協力が急には取れないことも多く、希望どうりの外出になっていないことも多い。また、外出を希望する方も限られてきている。 (外部評価) 寺、川、スーパーなどが近所にあるので、日常的に散歩や買い物に出かけている。	※	特に希望が出ない方にも外出の機会を作り、戸外に出かけるようにしていきたい。
62		○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	(自己評価) 十分でないかもしれないが、そういう対応をしている。		
63		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	(自己評価) 同様にしている。		
64		○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	(自己評価) 同様にしている。		

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(4) 安心と安全を支える支援					
65		○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	(自己評価) 身体拘束についてはカンファレンスで取り上げたこともあり、全職員で身体拘束をしないケアに取り組んでいる。やむ終えない場合は家族と話し合い必要最小限の方法にし、拘束廃止に向けて定期的に話し合いを持つようにしている。		
66	26	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	(自己評価) 同様に取り組んでいる。 (外部評価) 昼間は玄関に施錠することなく、職員が常に連携を取り合いながら、利用者の動きを把握するようにしている。利用者が外出傾向にある場合は、ユニット間でも連携して自由に外出できる体制をとっている。		
67		○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	(自己評価) 同様に取り組んでいる。		
68		○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	(自己評価) 個人の状態に合わせて対応している。		
69		○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	(自己評価) 同様にしている。		


自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
70		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	(自己評価) 基本的な応急手当の講習や消防訓練は年1回は行っているが、実際にその様な事態になった時に全職員が落ち着いて対応できるほどにはなっていないと思う。	※	回数を重ねることでより落ち着いて対応できるようになると思うので、繰り返し講習や訓練を行っていきたい。
71	27	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	(自己評価) 地域との協力関係作りがまだほとんどできていない。 (外部評価) 利用者も参加して、年1回は昼夜を想定した避難訓練を実施しているが、地域との連携はまだできていない。	※ ※	地域の人々の協力を得るための働きかけがまだ不十分なので、今後交流をしていくことで協力を得られるような関係作りをしていきたい。 運営推進会議で議題として取り上げるなど、日頃のつながりを持ち、一時避難場所の確保や誘導の援助などを依頼し、訓練にも参加してもらえる関係をつくっていくことを期待する。
72		○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にしたい対応策を話し合っている	(自己評価) 理解力の低下や運動機能の低下から事故につながる可能性が高かったり、病状が急変する可能性がある方など状態の変化に応じて家族と対応について相談している。		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
73		○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	(自己評価) 毎日のバイタル測定だけでなく普段と様子の違いに注意するようにし、何か気がついた時は申し送りノートに記入するなどして情報を共有し対応するようにしている。		
74		○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	(自己評価) 処方されている薬について、薬局から出されている説明文を個人ファイルに閉じてあり、必要に応じて確認できるようにしている。		

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
75		○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	(自己評価) 排便チェック表を作り各利用者の傾向をつかむと同時に、食事や運動だけでは排便につながらない場合の下剤の使用量や使用間隔の参考にしている。		
76		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	(自己評価) なかなか働きかけに応じてもらえない方もいらっしゃるが、働きかけは毎食後全員に行っている。		
77	28	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	(自己評価) 食事の形態や水分摂取の回数など個別の対応が必要な方にはその様に対応している。 (外部評価) 職員の得意分野を活かし、分担して献立を作成しているため、栄養バランスやカロリーについて一日全体としての管理が難しい。	※	一日分、一週間分をトータルとしての栄養バランスやカロリー確保を考慮しての献立を作成しておき、それを少しずつアレンジしていくようにしていくのが望ましい。また、栄養士からの助言を得られるよう取り組むことも期待する。
78		○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している（インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等）	(自己評価) 使い捨て手袋を使用したり、ペーパータオルを使用したりと、一般的な感染症対策マニュアルを参考に、ホームで実現可能なマニュアルを作り対応している。		
79		○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	(自己評価) 毎日調理器具は漂白殺菌等をし、食器類は食器乾燥機で乾燥し、食材についても毎日買物に行って、買い溜めや翌日までの作り置きというのも基本的にしないようにしている。材料の賞味期限も随時確認している。		

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
80		○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	(自己評価) 玄関入り口は緩やかな勾配でスロープ状にしている手摺を取り付けており、玄関周りに草花を植えて親しみやすくしている。		
81	29	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	(自己評価) 各所に観葉植物や絵を飾り、台所・食堂・居間がオープンスペースになっていて、食事を作っているところが見えたり、においも感じられるようになっている。 (外部評価) 居間、廊下はゆったりしており、ソファの配置などに工夫してお気に入りの居場所が確保されている。トイレは複数あり、利用者ごとに合った所を利用できる。浴室は家庭的で落ち着いてくつろげる工夫がなされている。		
82		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	(自己評価) ソファを置いたり、裏庭が見えるところに椅子を置いて自由に利用していいようにしている。		
83	30	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	(自己評価) 居室に入るものであれば馴染みの物を自由に持込んで構わないようにしているため、以前使用していたベッドや仏壇を持ち込んでいる利用者もいる。 (外部評価) ペットや仏壇を持ち込んだり、家族の写真を飾ったり、自宅で使っていた小箆箆やカーペットなどを配すなど、利用者の個性が感じられる居室になっている。		

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
84		○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のよどみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	(自己評価) 同様にしている。		
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり					
85		○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	(自己評価) トイレ内の広さや廊下の幅などは車椅子も利用できる広さを確保していて、各所の入り口の段差もなるべく無くすようにしている。またトイレ・浴室・廊下に手摺を取り付けている。		
86		○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	(自己評価) 共同で利用する場所や個人の居室に名前の表示をし、各所にカレンダーや時計を設置し日時も確認しやすいようにしている。また、個人的にも混乱や失敗を少なくする対応を心がけている。		
87		○建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	(自己評価) 裏庭に物干し場や菜園があり、できる利用者と一緒に洗濯物を干したり、野菜を植え一緒に育てたりしている。		

(注)

- 1  部分は自己評価と外部評価の共通評価項目。
- 2 全ての自己評価又は外部評価の項目に関し、具体的に記入すること。

V. サービスの成果に関する項目			
項目	取り組みの成果 (該当する箇所を○印で囲むこと)	判断した具体的根拠	
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	① ほぼ全ての利用者の (自己 2 利用者の2/3くらいの 評価) 3 利用者の1/3くらいの 4 ほとんど掴んでいない	普段の会話の中や行動にそういった内容が表れており、そのことをカンファレンスの時に気がついた職員が話したり、申し送りノートに記入し情報の共有をしている。また、各ユニットの職員も基本的に固定しているため、職員が利用者の状態について把握しやすいようになっている。
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	① 毎日ある (自己 2 数日に1回程度ある 評価) 3 たまにある 4 ほとんどない	おやつの時などはゆったりと過ごさせている。
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	① ほぼ全ての利用者が (自己 ② 利用者の2/3くらいが 評価) 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない	介護度の高い利用者は、介護度の低い人に比べると、本人のペースの割合が少なくなってしまう傾向が見られるが、できるだけ利用者のペースを尊重するようにしている。
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	① ほぼ全ての利用者が (自己 2 利用者の2/3くらいが 評価) 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない	いつもとはいかないが、寝たきりの利用者も職員の働きかけで笑顔が見られたりしている。
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	① ほぼ全ての利用者が (自己 2 利用者の2/3くらいが 評価) ③ 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない	利用者や家族の事情と職員体制上の事情で必ずしも行きたい所へ行くことは出来ていない。ただ、本人の意思確認が困難な利用者も車イス介助で近所に出かけたりする機会を作っている。
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごさせている	① ほぼ全ての利用者が (自己 2 利用者の2/3くらいが 評価) 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない	1人に対し2週間に1回は定期的な訪問診療医の往診があり、必要に応じ随時往診も行ってもらっている。また、訪問診療医と24時間連絡体制が取れているので、緊急時の指示も受けることができるようになっているので、主治医が別の利用者であっても一時的にでも何らかの対応が可能になっている。
94	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている	① ほぼ全ての利用者が (自己 2 利用者の2/3くらいが 評価) 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない	利用者の思い通りにというのは難しいこともあるが、家族と連絡をとったり職員体制の調整をしたりして希望をかなえるようにしている。
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができていく	① ほぼ全ての家族と (自己 2 家族の2/3くらいと 評価) 3 家族の1/3くらいと 4 ほとんどできていない	ほぼすべての家族とそうできていると思っているが、家族が本当はどう思っているかは分からない。
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	① ほぼ毎日のように (自己 2 数日に1回程度 評価) ③ たまに 4 ほとんどない	利用者の知人等の面会は数日に1回以上の割合であるが、それ以外の地域の方の訪問はあまり無い。

項 目		取 り 組 み の 成 果 (該当する箇所を○印で囲むこと)	判断した具体的根拠
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	1 大いに増えている (自己 2 少しずつ増えている 評価) ③ あまり増えていない 4 全くいない	運営推進会議が定期的に行えてなく、回数も少ない状況なので、交流が広がったというのはまだないが、これまでも町内会の方が地区のお祭りや行事の案内をしてくれていたというのあった。
98	職員は、生き活きと働いている	(自己 ① ほぼ全ての職員が 評価) 2 職員の2/3くらいが 3 職員の1/3くらいが 4 ほとんどいない	すべての職員が個々の健康状態や家庭の事情などで、何らかのストレスを抱えているだろうし、仕事上でも何らかのストレスを抱えていると思うが、仕事中はそういったことを見せないように明るい雰囲気を作るよう努力して働いている。
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	(自己 ① ほぼ全ての利用者が 評価) 2 利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない	利用者自身のあきらめのような納得があるのかもしれないが、特に不満の声を聞いていないのと、何か希望があったときはできるだけ対応しているので、おおむね満足していただいているのではと思う。
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	(自己 ① ほぼ全ての家族等が 評価) 2 家族等の2/3くらいが 3 家族等の1/3くらいが 4 ほとんどできていない	これも上記と同じく、特に不満の声を聞いていないのと、何か希望があったときはできるだけ対応しているので、おおむね満足していただいているのではと思う。

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

(自己評価)

グループホームは家庭的といっても、一般的な認識ではやはり施設と考えられているので、やはり家庭的な雰囲気というものを大切にしていきたい。また、どうしても施設に近づいて行事や普段の生活も集団行動的になっていく傾向があると思うので、できるだけ個人を尊重した対応を心がけ、安心してくつろげる家庭という雰囲気を大切にしていきたい。

(別表第1の2)

自己評価及び外部評価結果表

サービス評価自己評価項目 (評価項目の構成)

I. 理念に基づく運営

1. 理念の共有
2. 地域との支えあい
3. 理念を実践するための制度の理解と活用
4. 理念を実践するための体制
5. 人材の育成と支援

II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援

1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援

III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント

1. 一人ひとりの把握
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し
3. 多機能性を活かした柔軟な支援
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働

IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

1. その人らしい暮らしの支援
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり

V. サービスの成果に関する項目

ホップ 職員みんなで自己評価!
ステップ 外部評価でブラッシュアップ!!
ジャンプ 評価の公表で取り組み内容をPR!!!

ーサービス向上への3ステップー
 “愛媛県地域密着型サービス評価”

【記入方法】

- 指定認知症対応型共同生活介護の場合は、共同生活住居(ユニット)ごとに、管理者が介護職員と協議の上記入すること。
 - 各自己評価項目について、「取り組みの事実」を記入し、取組みたいに※を付け、適宜その内容を記入すること。
 - 「取り組みの事実」は必ず記入すること。
- (注) 自己評価について、誤字脱字等の記載誤り以外、外部評価機関が記載内容等を修正することはありません。

※用語について

- 家族等＝家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含む。
(他に「家族」に限定する項目がある)
- 運営者＝事業所の具体的な経営・運営に関わる決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)。
- 職員＝「職員」には、管理者および非常勤職員を含む。
- チーム＝一人の人を関係者が連携し、共通認識で取り組むという意。
関係者とは管理者・職員はもとより、家族、かかりつけ医、包括支援センターなど、事業所以外で本人を支えている関係者を含む。

事業所名 グループホーム ファミール立花

(ユニット名) Bユニット

記入者(管理者)
氏名 村上 文広

評価完了日 平成 20 年 4 月 10 日

(別表第1)

自己評価及び外部評価票

【セル内での改行は「Alt+Enter」です。】

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	(自己評価) 外部評価のときに、もっと具体的なものが良いのでは？との指摘を受けているが作っている。	※	理念をもっと具体的なもので分かりやすくしたほうが良いとの指摘もあるので、今後検討していきたい。
			(外部評価) 開設時に掲げた、「1. 安心して生活できる環境の提供 2. 個人の尊重と自立支援 3. 地域交流の支援」という理念のもと、ケアサービスにあたっている。	※	利用者が地域の中でその人らしく生活できるよう支えていく介護をイメージして、職員全員で理念の再考に取り組むことを期待する。
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	(自己評価) 日誌やロビーに理念を明記して普段から意識しやすいようにしているのと、カンファレンスやケアプラン作成時の基本的下地になっている。	※	自然と意識できるような機会を増やすようにして、理念の実現に取り組んでいきたい。
			(外部評価) 会議や介護計画作成時には意識しているが、日々のケアにおける意識づけは薄い。特に地域交流の支援については、行事がないと意識していないことが多い。	※	毎日の生活の中で、介護サービス提供時に具体的に理念が反映できるよう取り組むことが求められる。
3		○家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる	(自己評価) 入居説明時や運営推進会議のときに理念の話をしたり、ホームページの中に理念の記載もあるが、積極的に理念について理解してもらえようような取り組みはできていない。	※	もっと地域との関係が深まれば自然と理念についても理解していただけるようになると思うが、それがまだまだ不十分なので少しずつでも地域の中に溶け込めるような働きかけをしていきたい。

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
2. 地域との支えあい					
4		○隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	(自己評価) 年に1回ホームで花火をする時に近所に声をかけるようにしているが、他はあいさつ程度で、日常的な付き合いとまではなっていない。	※	ホーム近くの住民が職員として数名いるので、そこからでも徐々に日常的な付き合いを広げていきたい。
5	3	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	(自己評価) 地方祭は声をかけていただいて部分的に参加させていただくこともあるが、他の事はできていない。 (外部評価) 地域性があり、地域活動はあまりなされていない様子であるが、祭りなどの行事ごとには積極的に参加して地域の人々と交流を図っている。	※	少しづつでも交流を増やす努力をしていきたい。
6		○事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	(自己評価) 地域交流自体がまだ十分でないので、地域の高齢者に対しての取り組みはできていない。	※	地域交流が進めば、自然とそういう機会も増えてくると思うので、まずは地域との交流の機会をふやすことから始めていきたい。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
7	4	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	(自己評価) 十分でないが、できることから改善して行こうとしている。 (外部評価) 管理者やベテラン職員と新しい職員の間には、理解及び活用の面において開きがある。	※ ※	全てここに書かれてあるようにはできないが、より良いサービスを提供する指針になっているので、定期的な反省や見直しの良い機会だと考え、今後も評価を参考にすることができることから改善していきたい。 職員一人ひとりが丁寧に自己評価に取り組み、ミーティングを重ねて改善点を話し合いながら実践に活かすことで、ホームとしてのケアの質を向上させていけることを期待する。

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
8	5	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの 実際、評価への取り組み状況等について報 告や話し合いを行い、そこでの意見をサー ビス向上に活かしている	(自己評価) 運営推進会議の開催が定期的に行えてなく回数も少ない ため十分機能していません、サービス向上に活かされるの はこれからだと思う。	※	外部の目が定期的に入ることで、一定のサービスレベル の維持につながるのを、今後はこれをより良いサービス ができるように活かしていきたい。
			(外部評価) ホームの様子を解ってもらおうと努力しているが、開催 回数や参加メンバーがやや少ない。	※	認知症に対する理解を深めてもらい、地域でホームを支 援してもらえよう、メンバーを考慮すると共に、参加 してもらいやすくなるよう行事に組み込んで開催するな どの工夫を期待する。
9	6	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議 以外にも行き来する機会をつくり、市町村 とともにサービスの質の向上に取り組んで いる	(自己評価) 必要に応じ報告や話し合いを行っている。		
			(外部評価) 書類の提出等で窓口を訪れたり、相談窓口との連携を密 にして常に相談できる関係をつくっている。		
10		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域権利擁護事業や成 年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々 の必要性を関係者と話し合い、必要な人 にはそれらを活用できるよう支援している	(自己評価) 現在Bユニットに2名成年後見制度を利用している人が いて、1名は入居と同時に制度を利用している人で、も う1人は入居後必要と感じ制度を利用している。今後も 必要とおもわれる人にはこういう事業や制度があること を話すようにしている。	※	特に地域権利擁護事業については詳しく知らない職員が ほとんどなので、今後研修に参加するなどして学んでい きたい。
11		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法 について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や 事業所内で虐待が見過ごされることがない よう注意を払い、防止に努めている	(自己評価) カンファレンス時に話しをしたりして虐待防止に努めて いる。	※	継続して学ぶ機会を持つなどし、常に意識していくよう にしたい。

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制					
12		○契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	(自己評価) 同様に行っている。		
13		○運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	(自己評価) 普段の生活の中で、利用者が自分の意思表示がしやすいような関係作りを意識し、その中で気が付いたことで運営に反映できることは出来るように努力している。		
14	7	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている	(自己評価) 面会時に様子を伝えたり、掲示板に日常の様子を撮った写真を貼ったり、時々家族にも写真を印刷し送っている。金銭管理についても面会時に確認してもらっている。健康状態については目立った変化が見られた時は、随時連絡するようにしている。 <hr/> (外部評価) 暮らしぶりや健康状態については、主に来訪時に声をかけ詳しく伝えている。来訪のない家族については、介護計画の更新時などの機会をとらえて郵送で知らせている。行事の写真などはその都度届けている。小遣い等金銭の管理については、出納帳の確認をしてもらっている。		
15	8	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	(自己評価) 入居時の説明で、ホームや外部の苦情等を相談できる所を伝えているのと、面会時に職員が家族と会話したりする中で、お互いに気が付いたことを伝えるような関係作りを意識している。 <hr/> (外部評価) 家族会はつくられていないが、運営推進会議に参加して意見を出してもらっている。個別には、介護計画の更新確認の際に意見記入欄に自由に書き込んでもらい、出された意見等を運営に反映している。		

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
16		○運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	(自己評価) 毎月、介護主任、ユニット長、管理者、運営者が集まり会議を開くようにしており、その時に意見や提案を聞くようにして、反映できる事については対応するようにしている。		
17		○柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている	(自己評価) 同様に努めている。		
18	9	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	(自己評価) 同様にしている。 (外部評価) 職員はユニット毎に固定しており、退職等も比較的少ない。やむを得ず退職や異動がある場合には、前もって利用者に話し、引継ぎをしっかりと、ケアサービスの後退や中断が起きることのないよう配慮している。		
5. 人材の育成と支援					
19	10	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	(自己評価) 段階に応じて計画的には行えていないが、研修の機会があれば必要と思われる職員には受けてもらうようにしている。また、参考になりそうな研修の案内が来たときは掲示している。 (外部評価) 様々な研修・講演会等の情報を開示しているが、勤務の都合もあり、段階に応じた育成計画にはなりにくい。高齢者に多い病気に対しては、医師による勉強会を開いている。	※ ※	段階ごとに計画して行うようにしていきたい。 外部研修については、段階に応じた研修となるよう勤務ローテーションにも配慮を加えて受講を推進し、日常の勤務においても、育成を意識したトレーニングやミーティング時における勉強会を推進するなどの取り組みを期待する。

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
20	11	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	(自己評価) 包括支援センターの働きかけで、管理者同士の交流の機会が定期的に行われる予定がある。それ以外では、施設に知人がいる職員同士での情報交換は見られるが、相互訪問等は行っていない。 (外部評価) 地区内のグループホームが連携し、3か月に1回情報交換をしている。今後は職員も気軽に参加できる相互訪問等もしていきたいと考えている。	※	相互訪問は今のところ考えていないが、研修等に参加した時に情報交換ができるので、そういう機会はできるだけ増やしていきたい。
21		○職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	(自己評価) 職場環境については施設の構造上や経営上の制約からまだ不十分なことが多いと思う。	※	今後もできることから少しずつでも改善して行くよう取り組んでいきたい。
22		○向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	(自己評価) 十分でないがそのように努めている。	※	職員が継続して向上心を持って働き続けられるよう努力したい。
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
23		○初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	(自己評価) 同様にしている。		
24		○初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	(自己評価) 同様にしている。		

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
25		○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	(自己評価) 同様にしている。		
26	12	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	(自己評価) 必要と思われる利用者には同様にしている。 (外部評価) 入居時には自宅を訪問して生活環境を確認したり、ケアマネジャー等からも情報を収集し、丁寧にフェイスシートを作成している。また、利用者本人や家族に見学を重ねてもらい、職員とも顔馴染みになってもらうよう配慮している。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
27	13	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	(自己評価) そういう意識を持って接するように努力しているが、まだ足りないことが多いと思う。 (外部評価) 職員は、利用者のそばに寄り添いできるだけ会話する時間を取る中で、人生の先輩としての重みを感じる事が度々ある。物を大事にすることや我慢することの大切さなど、多くのことを教えられ学ぶことができていると感じている。	※	こういったことは常に意識しておかないといけないことであり、継続するための努力を続けたいものでもあるのでそうしていきたい。
28		○本人と共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	(自己評価) そういう意識を持って接するように努力しているが、まだ足りないことが多いと思う。	※	こういったことは常に意識しておかないといけないことであり、継続するための努力を続けたいものでもあるのでそうしていきたい。

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
29		○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	(自己評価) 同様にしている。		
30		○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	(自己評価) 十分でないと思うが、家族や以前交流のあった人たちにも働きかけ、馴染みの関係が少しでも維持できるように働きかけている。		
31		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	(自己評価) 同様にしている。		
32		○関係を断ち切らない取り組み サービス利用（契約）が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	(自己評価) 現在Bユニットではそういう事例が無いが、Aユニットではそういう利用者の家族がいらっしゃるの、同様に心掛けていきたい。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
33	14	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	(自己評価) 思いや希望をまずは受け入れるようにし、すべては無理でも、可能な部分ではできるだけ希望を取り入れるようにしている。 (外部評価) 日々の生活を共にする中で、利用者の話の端々に表れる意向や思いを受け止め、把握している。家族の来訪時には積極的に声をかけ、意向等を聞くよう努めている。		

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
34		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	(自己評価) 入居前に家族や関係者から聞き取りをしたり、入居後も本人との会話から情報が得るようにしている。		
35		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	(自己評価) 同様にしている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
36	15	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	(自己評価) 本人の普段の様子や家族の面会時等の情報を参考に月1回はカンファレンスを行い作成している。 (外部評価) 担当者が現状に基づく更新案を出し、カンファレンス時に職員全員から気づきや意見を加えてもらい、再評価して作成する。これを家族に提示して意見をもらい、新たな介護計画を作成している。		
37	16	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	(自己評価) 同様にしている。 (外部評価) 基本的には1か月を目安に評価して介護計画を見直しているが、変化があれば随時いつでも見直す体制をとっている。		

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
38		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	(自己評価) 同様にしている。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
39	17	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	(自己評価) 出来る限り対応している。 (外部評価) 理美容院、かかりつけ医への受診等の外出支援や、家の中に風を通しに自宅へ出向くなど、利用者の要望を実現できる努力をしている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
40		○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	(自己評価) 現在特に当てはまる例はまだない。	※	必要性に応じて同様におこないたい。
41		○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	(自己評価) 必要性に応じて同様におこなっている。		
42		○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	(自己評価) 今後、地域包括支援センターが中心となり、地域のグループホーム管理者が定期的に交流を持つ機会ができる予定なので、これまで以上に協働していけると思われる。	※	必要性に応じて同様におこないたい。

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
43	18	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	(自己評価) 同様にしている。 (外部評価) 運営者が医師であるため、往診はもとより頻繁にホームを訪れ、利用者の健康管理に常に配慮している。利用者の個別のかかりつけ医とも密に連携をとりながら、適切に受診できるよう配慮している。		
44		○認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	(自己評価) 同様にしている。		
45		○看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	(自己評価) 同様にしている。		
46		○早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	(自己評価) 同様にしている。		
47	19	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	(自己評価) できるだけ早い段階というわけではないが、必要と考えられる場合には同様に話し合いをしている。 (外部評価) 重度化や終末期への対応については、家族等の意見にそった対応を文書化し、「看取りについての同意書」を作成している。具体的には家族等の付き添いや宿泊の希望等へも対応している。		

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
48		○重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	(自己評価) 同様にしている。		
49		○住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	(自己評価) 同様にしている。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
50	20	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	(自己評価) 同様の対応を心がけているが、言葉遣いが友達言葉のようになることもある。 (外部評価) 利用者間、来訪者に対して、声かけや会話、記録・書類等、すべてにおいてプライバシーや個人情報に配慮している。	※	お互いに注意しあうようにしていたり、毎月のカンファレンスの時に利用者への対応についてなど、振り返り注意するようにしている。
51		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	(自己評価) 同様にしている。		

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
52	21	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	(自己評価) 職員の体制上の制約もあるが、ある程度の生活リズムを保ちながら出来る範囲で個人のペースを大切にしている。 (外部評価) 生活リズムが保たれるよう声かけはしているが、利用者のペースを優先させている。今何がしたいのか等の希望や思いを言葉や行動から察して支援するよう努めている。	※	工夫次第で、今以上に個人のペースに合わせられることも出来ると思うので、そのように努力していきたい。
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
53		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	(自己評価) あまり遠くの店の場合は近くの店に変更する場合もあるが、同様にしている。		
54	22	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	(自己評価) 参加できる人が限られてきているのと、参加できる内容も限られてきていて、部分的に準備や片付けに参加してもらっている感じになっている。 (外部評価) 利用者間の会話もあり、和気あいあいとした雰囲気がある。利用者によってはお気に入りの常備菜を持っていて楽しみにしている方もいる。準備や片付けはできる方ができていることをしている。	※	準備や片付け等、参加できる利用者にはできるだけ継続し参加していただくように働き続ける。
55		○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	(自己評価) 体重管理や医療面での制限がある場合もあるが、同様にしている。		

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
56		○気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	(自己評価) これまでの排泄パターンから時間誘導するなどし、失敗を少なくするような対応はしている。オムツの使用を減らすことは、状態を見ながらできそうなことがあると思う。	※	オムツの使用を減らすことは工夫次第でまだできそうなので、今後も改善できることはしていきたい。
57	23	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	(自己評価) 何かしら援助が必要な方が入浴するので、職員の体制上すべて本人の希望どおりにはできていない。 (外部評価) 曜日を決めるのではなく、一週間の間に2～3回、利用者の希望で入れるよう支援している。同性介助の希望にも対応している。	※	利用者の希望も取り入れながら、できる範囲で個々の希望を取り入れていきたい。
58		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々の状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	(自己評価) 同様になっている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
59	24	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	(自己評価) できるだけそうできるように努力している。 (外部評価) スーパーへ買い物に出かける方、猫に餌をあげるのが楽しみな方、ラジオから流れる歌を録音してカラオケを楽しむ方、ぬり絵・オセロ・パズル等をする方、チラシを眺めるのが好きな方など、個々に応じた様々な支援をしている。	※	工夫することで内容の充実を図れるようにしていきたい。

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
60		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	(自己評価) 実際にお金を所持している方は少ないが、希望がある人などには高額でない金額で本人に管理してもらっている。		
61	25	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	(自己評価) その日の希望に添っての外出は、職員の体制や家族等の協力が急には取れないことも多く、希望どうりの外出になっていないことも多い。また、外出を希望する方も限られてきている。 (外部評価) 寺、川、スーパーなどが近所にあるので、日常的に散歩や買い物に出かけている。	※	特に希望が出ない方にも外出の機会を作り、戸外に出かけるようにしていきたい。
62		○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	(自己評価) 十分でないかもしれないが、そういう対応をしている。		
63		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	(自己評価) 同様にしている。		
64		○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	(自己評価) 同様にしている。		

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(4) 安心と安全を支える支援					
65		○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	(自己評価) 身体拘束についてはカンファレンスで取り上げたこともあり、全職員で身体拘束をしないケアに取り組んでいる。やむ終えない場合は家族と話し合い必要最小限の方法にし、拘束廃止に向けて定期的に話し合いを持つようにしている。		
66	26	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	(自己評価) 同様に取り組んでいる。 (外部評価) 昼間は玄関に施錠することなく、職員が常に連携を取り合いながら、利用者の動きを把握するようにしている。利用者が外出傾向にある場合は、ユニット間でも連携して自由に外出できる体制をとっている。		
67		○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	(自己評価) 同様に取り組んでいる。		
68		○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	(自己評価) 個人の状態に合わせて対応している。		
69		○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	(自己評価) 同様にしている。		


自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
70		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	(自己評価) 基本的な応急手当の講習や消防訓練は年1回は行っているが、実際にその様な事態になった時に全職員が落ち着いて対応できるほどにはなっていないと思う。	※	回数を重ねることでより落ち着いて対応できるようになると思うので、繰り返し講習や訓練を行っていききたい。
71	27	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	(自己評価) 地域との協力関係作りがまだほとんどできていない。	※	地域の人々の協力を得るための働きかけがまだ不十分なので、今後交流をしていくことで協力を得られるような関係作りをしていきたい。
			(外部評価) 利用者も参加して、年1回は昼夜を想定した避難訓練を実施しているが、地域との連携はまだできていない。	※	運営推進会議で議題として取り上げるなど、日頃のつながりを持ち、一時避難場所の確保や誘導の援助などを依頼し、訓練にも参加してもらえる関係をつくっていくことを期待する。
72		○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にしたい対応策を話し合っている	(自己評価) 理解力の低下や運動機能の低下から事故につながる可能性が高かったり、病状が急変する可能性がある方など状態の変化に応じて家族と対応について相談している。		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
73		○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	(自己評価) 毎日のバイタル測定だけでなく普段の様子の違いに注意するようにし、何か気がついた時は申し送りノートに記入するなどして情報を共有し対応するようにしている。		
74		○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	(自己評価) 処方されている薬について、薬局から出されている説明文を個人ファイルに閉じてあり、必要に応じて確認できるようにしている。		

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
75		○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	(自己評価) 排便チェック表を作り各利用者の傾向をつかむと同時に、食事や運動だけでは排便につながらない場合の下剤の使用量や使用間隔の参考にしている。		
76		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	(自己評価) なかなか働きかけに応じてもらえない方もいらっしゃるが、働きかけは毎食後全員に行っている。		
77	28	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	(自己評価) 食事の形態や水分摂取の回数など個別の対応が必要な方にはその様に対応している。 (外部評価) 職員の得意分野を活かし、分担して献立を作成しているため、栄養バランスやカロリーについて一日全体としての管理が難しい。	※	一日分、一週間分をトータルとしての栄養バランスやカロリー確保を考慮しての献立を作成しておき、それを少しずつアレンジしていくようにしていくのが望ましい。また、栄養士からの助言を得られるよう取り組むことも期待する。
78		○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している（インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等）	(自己評価) 使い捨て手袋を使用したり、ペーパータオルを使用したりと、一般的な感染症対策マニュアルを参考に、ホームで実現可能なマニュアルを作り対応している。		
79		○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	(自己評価) 毎日調理器具は漂白殺菌等をし、食器類は食器乾燥機で乾燥し、食材についても毎日買物に行って、買い溜めや翌日までの作り置きというのも基本的にしないようにしている。材料の賞味期限も随時確認している。		

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
80		○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	(自己評価) 玄関入り口は緩やかな勾配でスロープ状にしている手摺を取り付けており、玄関周りに草花を植えて親しみやすくしている。		
81	29	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	(自己評価) 各所に観葉植物や絵を飾り、台所・食堂・居間がオープンスペースになっていて、食事を作っているところが見えたり、においも感じられるようになっている。 (外部評価) 居間、廊下はゆったりしており、ソファの配置などに工夫してお気に入りの居場所が確保されている。トイレは複数あり、利用者ごとに合った所を利用できる。浴室は家庭的で落ち着いてくつろげる工夫がなされている。		
82		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	(自己評価) ソファを置いたり、裏庭が見えるところに椅子を置いて自由に利用しているようにしている。		
83	30	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	(自己評価) 居室に入るものであれば馴染みの物を自由に持込んで構わないようにしているので、以前使用していたベッドや仏壇を持ち込んで利用している利用者もいる。 (外部評価) ベッドや仏壇を持ち込んだり、家族の写真を飾ったり、自宅で使っていた小箆箆やカーペットなどを配すなど、利用者の個性が感じられる居室になっている。		

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
84		○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のよどみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	(自己評価) 同様にしている。		
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり					
85		○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	(自己評価) トイレ内の広さや廊下の幅などは車椅子も利用できる広さを確保していて、各所の入り口の段差もなるべく無くすようにしている。またトイレ・浴室・廊下に手摺を取り付けている。		
86		○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	(自己評価) 共同で利用する場所や個人の居室に名前の表示をし、各所にカレンダーや時計を設置し日時も確認しやすいようにしている。また、個人的にも混乱や失敗を少なくする対応を心がけている。		
87		○建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	(自己評価) 裏庭に物干し場や菜園があり、できる利用者と一緒に洗濯物を干したり、野菜を植え一緒に育てたりしている。		

(注)

- 1  部分は自己評価と外部評価の共通評価項目。
- 2 全ての自己評価又は外部評価の項目に関し、具体的に記入すること。

V. サービスの成果に関する項目			
項目	取り組みの成果 (該当する箇所を○印で囲むこと)	判断した具体的根拠	
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	① ほぼ全ての利用者の (自己 2 利用者の2/3くらいの 評価) 3 利用者の1/3くらいの 4 ほとんど掴んでいない	普段の会話の中や行動にそういった内容が表れており、そのことをカンファレンスの時に気がついた職員が話したり、申し送りノートに記入し情報の共有をしている。また、各ユニットの職員も基本的に固定しているため、職員が利用者の状態について把握しやすいようになっている。
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	① 毎日ある (自己 2 数日に1回程度ある 評価) 3 たまにある 4 ほとんどない	おやつの時などはゆったりと過ごさせている。
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	① ほぼ全ての利用者が (自己 ② 利用者の2/3くらいが 評価) 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない	介護度の高い利用者は、介護度の低い人に比べると、本人のペースの割合が少なくなってしまう傾向が見られるが、できるだけ利用者のペースを尊重するようにしている。
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	① ほぼ全ての利用者が (自己 2 利用者の2/3くらいが 評価) 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない	いつもとはいかないが、寝たきりの利用者も職員の働きかけで笑顔が見られたりしている。
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	① ほぼ全ての利用者が (自己 2 利用者の2/3くらいが 評価) ③ 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない	利用者や家族の事情と職員体制上の事情で必ずしも行きたい所へ行くことは出来ていない。ただ、本人の意思確認が困難な利用者も車イス介助で近所に出かけたりする機会を作っている。
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごさせている	① ほぼ全ての利用者が (自己 2 利用者の2/3くらいが 評価) 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない	1人に対し2週間に1回は定期的な訪問診療医の往診があり、必要に応じ随時往診も行ってもらっている。また、訪問診療医と24時間連絡体制が取れていて緊急時の指示も受けることができるようになっているので、主治医が別の利用者であっても一時的にでも何らかの対応が可能になっている。
94	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている	① ほぼ全ての利用者が (自己 2 利用者の2/3くらいが 評価) 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない	利用者の思い通りにというのは難しいこともあるが、家族と連絡をとったり職員体制の調整をしたりして希望をかなえるようにしている。
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができていく	① ほぼ全ての家族と (自己 2 家族の2/3くらいと 評価) 3 家族の1/3くらいと 4 ほとんどできていない	ほぼすべての家族とそうできていると思っているが、家族が本当はどう思っているかは分からない。
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	① ほぼ毎日のように (自己 2 数日に1回程度 評価) ③ たまに 4 ほとんどない	利用者の知人等の面会は数日に1回以上の割合であるが、それ以外の地域の方の訪問はあまり無い。

項 目		取 り 組 み の 成 果 (該当する箇所を○印で囲むこと)	判断した具体的根拠
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	1 大いに増えている (自己 2 少しずつ増えている 評価) ③ あまり増えていない 4 全くいない	運営推進会議が定期的に行えてなく、回数も少ない状況なので、交流が広がったというのはまだないが、これまでも町内会の方が地区のお祭りや行事の案内をしてくれていたというのあった。
98	職員は、生き活きと働いている	(自己 ① ほぼ全ての職員が 評価) 2 職員の2/3くらいが 3 職員の1/3くらいが 4 ほとんどいない	すべての職員が個々の健康状態や家庭の事情などで、何らかのストレスを抱えているだろうし、仕事上でも何らかのストレスを抱えていると思うが、仕事中はそういったことを見せないように明るい雰囲気を作るよう努力して働いている。
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	(自己 ① ほぼ全ての利用者が 評価) 2 利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない	利用者自身のあきらめのような納得があるのかもしれないが、特に不満の声を聞いていないのと、何か希望があったときはできるだけ対応しているので、おおむね満足していただいているのではと思う。
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	(自己 ① ほぼ全ての家族等が 評価) 2 家族等の2/3くらいが 3 家族等の1/3くらいが 4 ほとんどできていない	これも上記と同じく、特に不満の声を聞いていないのと、何か希望があったときはできるだけ対応しているので、おおむね満足していただいているのではと思う。

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

(自己評価)

グループホームは家庭的といっても、一般的な認識ではやはり施設と考えられているので、やはり家庭的な雰囲気というものを大切にしていきたい。また、どうしても施設に近づいて行事や普段の生活も集団行動的になっていく傾向があると思うので、できるだけ個人を尊重した対応を心がけ、安心してくつろげる家庭という雰囲気を大切にしていきたい。